

第6期宮前区区民会議 第2回（仮称）地域活性部会 【摘録】

日時：平成28年9月9日（金）18:00～20:00

会場：宮前区役所4階 第4会議室

【進行 佐藤部会長】

出席委員：荒川、老門（泰）、大木、影山、川田、黒澤、佐藤、田辺、山田
（9名）

欠席委員：山部（1名）

傍聴人：0名

議題：

1. 専門部会の審議テーマについて

意見交換を実施。

キーワード整理、主な意見は次ページ以降参照。

2. その他

部会名について…テーマが絞り込めた段階で協議

今後の進め方…部会日程案等の確認

専門部会の審議テーマについて（主なキーワード・模式図整理）

根底の考え方・ねらい	人と人の繋がりを強化することによる「地域活性化」	
	地域で商売している人（商店・個人事業主・農家など）をターゲットに考える	
	商売している人 同士の繋がり →コラボやビジネスチャンスの創出 →地域雇用や賑わいの創出	商売している人 と区民の日常的な繋がり →地域の魅力の認知・創出（オリワ） →地域の魅力発信、地域への愛着強化
	→若い人を核に。新たな層を取り込みたい	

活動の方向性（案）	宮前区の“市”の創出	農を身近で日常的なものに
	<ul style="list-style-type: none"> ・多ジャンル混合 “ごった煮市” ・個人事業主やアーティストの作品も ・「収益」と「出会い」を意識 ・地域の様々な場で展開（地域公園等？） 事例：高津さんの市、大磯の朝市、 ファーマーズマーケットなど	<ul style="list-style-type: none"> ・生活者と農家の交流・一体化 ・農産物ブランド化 ・身近な農業体験・交流 事例：直売所マップ、農家巡りウォーキング、C級グルメ、農家の学校教育への協力など

運営・資金	一定の報酬、運営の自立を目指す	運用方法の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・無償ボランティアに頼らない ・インセンティブ・やりがいの創出 ・継続性のある運営体制の確立 	有償ボランティア／会費制／ファンドの活用／ボランティアポイント制／地域通貨 などが話題に 地域交通の良い運用方法についても意見

場の検討	公園の活用	カフェを交流拠点に	空き家や空き店舗の活用
	<ul style="list-style-type: none"> ・公園のネットワーク化や特色化 ・地域運営の検討 事例：南池袋公園内カフェ	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽な交流拠点 ・出会い・情報交換 事例：麻生区等コミカフェ	<ul style="list-style-type: none"> ・活用環境整備 （家賃・税等制度提案は困難？） 事例：こまじいの家（豊島区）他

将来像	生活の場として住みやすい宮前区、日常的なつながりの強化
	→地域コミュニティの総合的な活性化・産業の振興

※各意見の詳細その他は次ページ以降参照

別紙イベントチラシ「運転ボランティアについて知ろう」について、地域ケア推進担当の吉留・池田から説明があり、質疑等行った。

- ・ 運転ボランティアとして働くにはどこか団体に所属しなければならないイメージだ。もっと自由に運用できればと思うが、規制緩和などはあるのか。(老門委員)
- ・ 川崎市の福祉有償輸送は市の運営協議会の指導、取決めの下で運営されており、ボランティアは協議会に所属していただく形になっている。(地域ケア推進担当)
- ・ 利用対象者はどのような方々になるのか。(黒澤委員)
- ・ 「福祉有償輸送」の利用者は「身体的な不自由を伴う方」と規定されているが、厳格な基準は無く、「日常生活に不便を感じている方」を個々に判断している。(地域ケア推進担当)
- ・ 自治会で救急車を呼ぶかどうか判断に迷うことなどがある。福祉タクシーを呼んだ方が良い場合がありえるのか？(黒澤委員)
- ・ 「福祉有償輸送」は運営されている団体ごとに受け入れ基準を設定している。例えばNPO 赤い屋根では、会員としての利用登録が必要だ。運営団体が OK すれば継続的な利用も可能であり、その点で救急車と異なる。(地域ケア推進担当)
- ・ 利用料金は通常のタクシーの大体半額ということだが、実際はどうか？(老門委員)
- ・ 赤い屋根さんは利益重視でなく、「地域の方の使い易さ」を第一に考えられて、かなり安い料金で運行されている。(川田委員長)
- ・ 国交省が許認可している福祉タクシーと、福祉有償輸送との違いは。(影山副委員長)
- ・ 一般的なタクシーの許認可には 2 種運転免許が必要。介護タクシーや個人タクシーはこの下で運営されている例。「福祉有償輸送」は、福祉目的の利用を前提に 2 種免許が無い方でも一定の講習を受ければ、ドライバーとなれるなど、一定の範囲で規制が緩和されている。(地域ケア推進担当)
- ・ 坂道が多く、バス路線が充分でない宮前区で、もっと小回りが利く形に変わっていくと良い。(川田委員長)
- ・ 例えば地域包括支援センターから、介護認定の有無に関わらず、利用者の推薦ができたリ、地域を巡回している車があると良い。野川南台団地で現在、循環バスの運営がされているが、かなり持ち出しが多いようだ。住民に便利な形が良い。(川田委員長)
- ・ 担い手の中心は、高齢者世代なのか？若い世代はいないのか(佐藤部会長)
- ・ 全国的な統計では 60 歳以上が中心だ。退職後に運転スキルを活かそうと参加される方が多いようだ。例えば土日だけでも若い世代にも参加いただければ、継続的な利用にもつながると考えている。(地域ケア推進担当)
- ・ 講習会が平日に開催されているので、現役世代はなかなか参加できない。この問題に限らないが、日程的な課題もあるのではないかと。(川田委員長)
- ・ 大学生なども参加できると良い。(田辺委員)
- ・ 18 歳から免許は取得可能。ぜひ学生にも参加していただきたい。(地域ケア推進担当)

議題2：専門部会の審議テーマについて

【人のつながりづくりで住みやすいまちに】

- ・ 人のつながりを根底に置いて、それをどうつくっていくか。(川田委員長)
- ・ 生活の場としての宮前区を住みやすいまちにしたい。(田辺委員)
- ・ お祭りやイベントでスポット的に知ってもらおう事も悪くないが、日常的につながることができればより意味がある。(田辺委員)
- ・ 例えば農は食育と繋がる。現場に行って、作物を直接手にとり、ありがたくいただく。人の生き方につながれば、地域の発展、暮らしやすさにもつながっていく。(田辺委員)
- ・ 人と人とのつながりの薄い社会の中、どうやったら繋がりを濃くできるかということではないか。高齢化が進めばさらにつながりが薄くなってしまいそうだ。(田辺委員)
- ・ 繋がっていないから、やりたいことがやれない人がいる。つなげていけば、お互いの足りないところが見えてきて、活性化になるのではないか。(佐藤部会長)
- ・ 福祉分野では、町内会やご近所といった身近な地域単位で考えられることが多いが、農業や商業をベースに考えると必ずしも身近な地域でなくて良い。宮前区内の市民活動には地域を超えて繋がっているものもたくさんある。(田辺委員)

【産業振興の考え方…地域の商売と区民を近づける】

- ・ 産業振興を中心に据えれば、多様な課題が派生的に扱えそうだ。(佐藤部会長)
- ・ 地域で商売をしている人を元気にするイメージ。商店や個人事業者はもちろん、菜園や畑をしている人なども入ってくる。(佐藤部会長)
- ・ 農業はあくまで要素の一つ。より大きなスタンスで考えたい。若い人に魅力を感じていただける形。漫画やアニメなどを核にするのはどうか。(山田委員)
- ・ 目指す方向としては、区内で商売している人と区民の距離を近づける。働く場所と生活する場を近づける。ではないか。(コンサル)
- ・ 区民と商売との距離があるイメージだ。身近になる形を考えていきたい。(川田委員長)
- ・ 区民が身近な地域の商売や個人事業主を知れば、魅力としての認知、地域への愛着につながる可能性がある。(コンサル)
- ・ 甘納豆の駿河屋さんのような特徴のある店は区内にもいくつかあり、そのブランドもある程度確立されている。(田辺委員)
- ・ 宮前にしかないものが一つでも見いだせれば。古くからあるものばかりでなく、新しいものも見出したい。(田辺委員)
- ・ 例えば個人で物をつくっているが、販売する場がないという人にその場を提供する。(川田委員長)
- ・ 「産業振興」というイメージが固く、今日の議論内容のイメージにはつながりにくいと感じる。(黒澤委員、川田委員長、田辺委員)
- ・ 言葉でまとめると「地域の活性」以外思いつかない。(大木委員)

【新しい層、若い世代の取り込み】

- ・ 地域活性を幅広く捉え、若い人を核にしていくイメージ。(山田委員)
- ・ 町内会やお祭りなどいろいろなイベントがあるが、出る人はある程度決まっている。芸術など新しい要素を盛り込み、新しい層にアピールしたい。(老門委員)
- ・ 区政 30 周年の時に、ヘビーメタルバンドで、若い人を集める「宮前重金属化計画」という企画があったが、1回で終わった。(田辺委員・荒川委員)
- ・ アートの市やイベントは若い世代を集める魅力がありそうだ。(老門委員)
- ・ 若い人が考える若い人の意見を吸い上げたい。(川田委員)
- ・ 昔やこれまでどうだったということは気にしなくて良い。(影山副委員長)

【農業の活性化 活動例や考え方】

- ・ 単なる地産地消でなく、生活者と農家の一体化。一般区民とのコラボや連携が作れたら良い。方法は多様だ。(田辺委員)
- ・ 農産物ブランド化は新しい着想だ。魅力発信とうまく繋がると良い。(黒澤委員)
- ・ 農産物をブランド化し、地域の商店やカフェに置き、認知度を高めていくのは良いと思う。(川田委員長)
- ・ まち協では「直売所マップ」を制作(現在第2版)している。また年2回の「農家巡りウォーキング」には数十人の参加がある。HP上で農産物のレシピ紹介も行っている。市民館事業では「C級グルメ」がある。個々の農家でも、学校教育に協力して農業体験させたり、畑でコンサートを開催している例がある。(田辺委員)
- ・ 「農を知ろう」という市民館の活動が、「農を応援しよう」になり、マップづくりに繋がった。名物づくりが必要だという話からC級グルメに繋がった。(荒川委員)
- ・ 小泉農園やはぐるま農園はイベントとして収穫祭をしている。(川田委員)
- ・ 小泉農園のイチゴを地域の人が体験する企画を進めている。次世代に地元の緑を守りながら農業をしている方々を知って欲しい思いがある。(影山副委員長)
- ・ まち協がやっているマップづくりはきっかけづくり。区民に生活の中でどんどんマップを利用してもらえると良い。(田辺委員)
- ・ 「宮前人参」は本が出され、歴史もある。そういうものも探っていきたい。(荒川委員)
- ・ 地主さんと一緒に進めているが、働き手の面で行き詰まっている感もある。(荒川委員)

【運営の資金、担い手の報酬についてなど】

- ・ 負担が多く、頑張らないとできない形では担い手が一定以上増えない。無理なく人のためになり、何らかの対価をもらえるのが、あるべき形だ。(佐藤部会長)
- ・ カフェなら担い手に一定の給料を払える形。それが何か所かあれば理想だ。(老門委員)
- ・ 普通の時給まで行かずとも、少しでも報酬があるとやりがいが変わる。(川田委員長)
- ・ ある程度の収入を得られる形、年金の足しになる形を目指したい。(影山副委員長)
- ・ 無償ボランティアに頼ると理念だけで終わってしまうことがある。見返りがあるから

こそやりがいも上がり、地域活性化につながるという視点は新鮮だ。(事務局)

- ・ 最近は以前ほどボランティア志願者が出て来なくなったと感じる。ボランティア募集を告知しても集まりが悪い。最初は気持ちが強くて、なかなか続かない。いつまでもボランティアに甘えてはいけない。(川田委員長)
- ・ 世の中の事情も変わってきた。以前は貯金すれば、10年経てばかなりの利息がついたが、今は逆に減ってってしまう状況だ。(荒川委員)

【費用面から考えた運用の例・アイデア】

- ・ 利用者から会費を徴収し、運営費やスタッフ報酬にしている例もある。(川田委員長)
- ・ ファンドなどの仕組みでお金を集め、ボランティアを募集する。(影山副委員長)
- ・ 米国では、行政がボランティアを主導し、一定の報酬が出ている例が多い。(山田委員)
- ・ ボランティアにポイント制を導入し、貯めたポイントを将来、自分のために使えるようにしている例もある。(老門委員)
- ・ 横浜では75歳以上を対象にボランティアポイント制が導入されている。送迎ボランティアをしている方の話を伺ったが、誇らしげに仕事や溜まったポイントについて話してくれた。生活にも張りが出たようだ。(荒川委員)
- ・ 地域通貨の導入事例もあるが、貯めるばかりになってしまったり、うまく回すのは非常に難しいようだ。(荒川委員)
- ・ 川崎では福祉分野で地域生活支援事業という有償ボランティア制度がある。障がい者支援団体が窓口になってボランティアを募集している。例えば障がい者の方の散歩の付き添い。ヘルパーよりボランティアの方が低コストでできる。(老門委員)

【宮前のごった煮市】

- ・ 公園でふるさと市を開催し、お金の流れを生み出せないか。(影山副委員長)
- ・ 商売としても成り立つ「市場」的なものを宮前区でどうつくっていくか、考えてみてはどうか。(コンサル)
- ・ 何か特定のジャンルではない、ごった煮のような市があっても良いのではないかと。今繋がっていない人が繋がりをもつきっかけを仕掛けたい。(佐藤部会長)
- ・ 売り上げがあれば万々歳だが、無くても出会いがあれば良い。(佐藤部会長)
- ・ ただ仕組みだけ考えるのではなく、実際の出店者を発掘することも重要だ。(コンサル)
- ・ 一か所でやるのではなく、地域の様々な場所で行われているのが理想だ。(川田委員長)
- ・ 高津区、溝の口駅南側の久本薬医門公園では「たちばな農のあるまちづくり」推進会議主催の「高津さんの市」という地域の農産物の市が隔月第3日曜日に開催されている。(荒川委員)
- ・ JAなどでも地元農産物の特売会などは開催されている。(コンサル)
- ・ 地方ではよく、アートフェスティバルが開催され、個人が出店している。(老門委員)
- ・ 大磯港での朝市など、地域の産物や地域のアーティストが作品を出店する場が定期的

に開催され、観光客も集めている事例がある。(コンサル)

- ・ 毎年 11 月 23 日に高根森林公園でファーマーズマーケットが開催されている。ボランティアが売り子で 30 万円の売り上げがあるが、純利益は数万円だ。(荒川委員)

【地域交通と産業振興】

- ・ 運転ボランティアも産業振興の一つと考えられる。制度の自由度を高め、個人でも運用が可能になると担い手も利用者も増えるのではないか。(老門委員)
- ・ バスを何度も乗り換えなければならぬならば、その分費用を提供していただき、そのお金を集め、それを元に運転ボランティアを募集する。(影山副委員長)
- ・ 野川南台団地のコミュニティバスは、道路運送法の関係で乗車賃がとれないようで、数十万の持ち出しがあるようだ。(川田委員長)

【カフェを拠点とした繋がりづくり】

- ・ 地域に気軽に入れるカフェがあり、様々な商売をしている人が集まってくれば、コラボのアイデアも生まれてくるのではないか。(佐藤部会長)
- ・ 麻生区の事例では毎日開店し、食事も提供、週 1 回夜間も開設されている。(老門委員)
- ・ ユーズカフェは拠点として利用させていただいている形。飲食はオーナーによる喫茶店営業で別になっている。(川田委員長)
- ・ 東高根森林公園に隣接している民家、庭や一室でも良いのでカフェを営業したら、儲かりそうだ。地域で運営していく形になれば、一層活性化になる。(川田委員長)
- ・ カフェはお客さんでいくよりも、経営したい人が多い。(荒川委員)
- ・ 自治会単位でのコミュニティカフェ設置に向けて役所も動き出している。(川田委員長)

【空き家・空き店舗の活用など】

- ・ 空き家を家賃なしで活用できる場があれば良い。固定資産税の免除などすれば貸してくれる方も現れるかもしれない。(老門委員)
- ・ 空き家から考えると、財産や規制の話に行き当たる。何かやりたいことがまずあって、その場として空き家の可能性を考えた方が、必要な事柄が見えてくる。(コンサル)
- ・ 税制等について提案しても、区民会議ができることは少ない。お店をやりたい人がいて、それを応援する人達もいて、何とかしようと実際に動き、制度も変えていくような運動ができて、初めて実現することではないか。(田辺委員)
- ・ 例えば空き店舗にいろいろな人が出入りして、知恵を持ち寄り、活性していく方向性。(川田委員長)
- ・ 外資にまで目を向ける。空き家の問題では例えば、日本に家を持ちたい外国人も考える。(黒澤委員)
- ・ 家賃や光熱費まで運営で賄うのは大変だ。(川田委員長)

【公園の活用など】

- ・ 世田谷区では公園毎に異なるタイプの運動器具が置かれていてネットワークになっている例がある。川崎の公園にも多世代で利用できるものがあると良い。(影山副委員長)
- ・ 会員制を導入することで、不特定多数でなくなり、責任所在が明確化されてやりやすくなることもある。民泊もその例。地域の方に担っていただく、公園らしくない公園があっても良い。(影山副委員長)
- ・ 南池袋で再整備された公園内にカフェが建てられ、収益が地域による公園運営費になっている例がある。(事務局)
- ・ 仮設テントでも良い。来場者にとっては建物とそれほど変わらない。(影山副委員長)
- ・ 生協が公園を使ってバザーなどをやっている例もある。(老門委員)
- ・ 外から持って来たものを公園で売るとは可能だ。(大木委員)
- ・ 自治会の夏祭りで、公園でバザーも開催するが、問題とされたことはない。売り上げは自治会の重要な資金源だ。(黒澤委員)
- ・ 東京都では待機児童の問題を解決するために、公園を二階建てにし、1階を保育所とした事例もある。(山田委員)
- ・ 水沢の森では、森で育てた物で利益を出してはいけないルールなので、無償で関係者等にお分けしている。(荒川委員・山田委員)

議題3：その他

【部会名について】

- ・ テーマがもう少し絞られた時点で検討するものとする。(次回以降)

【今後の進め方】

- ・ 資料に基づいて、日程等確認した。次回は事例資料等持寄りながら、テーマの更なる絞り込みを図る。